

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101131		
法人名	医療法人一穂会		
事業所名	グループホームハイジの家(1階)		
所在地	静岡県浜松市西区西山町520番地		
自己評価作成日	令和5年11月24日	評価結果市町村受理日	令和6年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaitogokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kounvo_u_detail_022_kani=true&ligosvoCd=2277101131-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和5年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりのかなえたい事、思いを汲み取り少しずつではあるが実行しています。ご家族との連絡はLINEを活用し利用者様のご様子や状況説明などを行っており、忙しいご家族様はとても助かるという言葉を受けています。
医療面では、隣接の西山病院の医師、看護師、理学療法士、栄養士、相談員が関わり多方面からアドバイスを頂くことができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日頃の思いを担当職員が聴き取って利用者の願いを叶える「かなえるシート」に法人全体で取り組んでいます。「家族に会いたい」「忙しくて面会に来られないがゆっくり話をしたい」など、心に秘めた思いも聴かれていて、あらためて家族との絆を確かめることにつながり、感謝の言葉が届いています。介護計画にも「家族と愛犬との散歩」や「移動スーパーで毎週買い物を楽しむ」「入浴日以外にも入浴を楽しめる機会を作る」といった「かなえるシート」を活用したサービス内容が並び、理念とする西山アイデンティティの「気持ちのわかる親切～その行動は、相手が本当に求めているものなのか」の実践を裏付けています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理事長が変わり理念を引き継ぎ行うにあたってより深く理念を知ってほしいと「西山アイデンティティ」を作りました。研修により「気持ちのわかる親切・和やかな雰囲気・清潔」の意味を職員みんなで再確認し、実践につなげている。	「西山アイデンティティ」は法人の専任職員を通じて職員全員に周知されています。「気持ちのわかる親切～その行動は、相手が本当に求めているものなのか」は、カンファレンスの場面で引用され、法人が大切にしている価値観を理解したケアに結ばれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	法人全体では行っているが、単独では難しいところがある。去年から地域の移動スーパーを利用しており「売店のおじさん」と呼んで楽しみにされている。	週に一度来所する移動スーパーは「顔なじみのおじさん」となっていて、「この人の好きな物は○○」と、利用者の好みを把握してくれています。店主とのやりとりやあれこれ迷うのも楽しみのひとつとなり、金銭管理できる人は自身で支払いもおこなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内の包括支援センター等により研修や講演を行っているが、事業所としては運営推進会議にて認知症についての理解を深めていただくよう話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナも5類になり会議を開催している。コロナ禍での様子や今後も感染症に気をつけながらの取り組みについて話している。	今年度より通常開催として自治会長、民生委員、家族代表、浜松市中区介護保険課、地域包括支援センター職員の出席を得ています。利用者の状況やインシデント・アクシデント、身体拘束適正化の取組を報告し、活動の様子を写真で伝え、運営の透明性を担保しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連絡は運営推進会議のみにとどまっている。	運営推進会議書面開催の折には毎回FAXによる意見がもらえ、参会もあります。運営指導における指摘事項には改善計画を提出して速やかな是正を図り、浜松市から配信されるメールは随時チェックし、重要事項は掲示や回覧で共有しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の「身体拘束廃止委員会」に出席し研修を行っている。去年、2名のエスケープが2回あり各階の出入口の施錠を行うこととなりましたが、常時開錠できるようにするよう検討を重ねていきたいと思っています。	法人内各事業所の委員が毎月集まり、身体拘束廃止・虐待防止推進委員会を開催しています。身体拘束適正化に係る取組を遂行するうえで認知症の理解とともに、不適切ケアを正しく知る必要性を感じ、研修に落とし込み、職員の方向性を統一して実際のケアに活かしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で身体拘束廃止とともに虐待についても委員会があり研修を行い職員へ伝達研修を行い理解を深めケアに生かしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について学ぶ必要があるが、機会を作ることができていないのが現状である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は法人内の地域連携センターにて説明を行っている。必要時、施設管理者が不安な転倒の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人内にご意見箱を設けてご家族からの意見を聞くことができる。また、法人ホームページにて普段の様子を年2回発信したりご家族からの意見を頂くことができる。	9割以上の家族とSNSでつながり、意見聴取や状態報告、連絡事項、誕生日の希望、協力態勢など、有効な連絡手段として定着しています。ユニットリーダー、介護支援専門員からの発信で動画も送信し、いつでも見られるタイムリーな近況報告が喜ばれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内の個別メールにて相談できる。年1回～2回の面談を行い個々の意見を聞くようにしている。	法人の相談窓口をはじめ、管理者との個人面談、毎日のカンファレンスなど、職員からの意見を吸い上げる仕組みを多様に設けています。毎日15時から15分間おこなうカンファレンスは、短くてもインシデントや業務改善、ケア内容について意見を交わす有意義な時間となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者とともに法人内の介護部長等に直接疑問点を伝えることもでき、改善に向けて整備をすることができるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に教育担当がで、研修の情報を送ってくれている。オンラインで外部研修をお行ったり、伝達講習を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は行うことはできていない。今後は、交流ができるよう検討していきたい		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のアセスメントや入居1カ月間のご様子、ご本人からの聞き取り等で思いに添えるようご家族も含め考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、ご家族の考えや要望を把握し不安のないよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、ご家族の思いとご本人の状態を把握し現在必要なサービスであるか検討をしながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできることや思いを把握し一人一人に合わせた生活ができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	LINEを活用し現状を伝え、写真を送っている。その他、利用者様からご家族へはがきを送りご家族とのやり取りを行うなどご家族との繋がりをいろいろな形で行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院へ行っていただいたり、ご家族以外の交流のあった方などが気軽に来ることができるよう支援に努めている。	事前連絡を基本としてマスク着用、手指消毒と体調確認を継続し、居室内での面会としています。5類移行を機に外出や外食の制限もありませんが、感染へのリスクを低減するため人込みを避けつつ、気分転換に外食に出かけたり、誕生日には家族で外食する人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性を尊重しまた関係性を考えた対応をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了においても、ご家族からの相談がある場合は必要に応じて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の誕生日にかなえたいことを実地している。娘さんとゆっくり食事をしたいとの思いの方には誕生日と一緒に食事をしていただき。自宅の犬と散歩がしたい方にはご家族と犬と施設周囲を散歩をし喜ばれた。	利用者の願いを叶える「かなえるシート」は法人全体で取組み、担当職員が思いを聴き取っています。「家族に会いたい」「忙しくて面会に来られないがゆっくり話をしたい」など、日頃から心に秘めた思いが叶えられるよう計らい、家族からも感謝の言葉が届いています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談記録やアセスメント、日ごろの気づき等を職員間で共有するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日によって状態は違うことを理解し、その人に合った一日であるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の見直しについては見直しが必要な利用者の計画書に職員個々に必要なことを記入しモニタリングを行っている。カンファレンスで上がった意見も反映している。ケア担当社会議では多職種からの意見を聞いている。	主治医、看護部長、介護部長、看護師、栄養士、理学療法士、相談員といった専門職が出席するサービス担当者会議では、専門的知見と新たな視点から現状抱えている課題の打開策が見つかりことも多々あり、より良く暮らすための介護計画に活かされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録で、身体的な問題はケア記録にて職員全員が把握出来るようにしている。必要時、カンファレンスにて話し合い介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態やご家族の状況を考え現在で切るより良いサービスの検討を法人の協力を得ながら行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在の状況では地域との結びつきが難しい地域資源について考える機会を作りたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居時、ご家族の同意のもと西山病院医師となっている。約月2回の往診と必要時の診察を受けることができる。そのほか、協力歯科医院もあり訪問歯科を受けることができる。	母体病院から月2回の訪問診療と、看護師、理学療法士も連携した安心の医療体制があり、全員が協力医に変更しています。訪問診療への立ち会いは主任または介護支援専門員がおこなって「診察記録」に結果を入力し、報告が必要な内容は即日SNSで家族に知らせています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回特定看護師の巡回があり、相談ができる。また、必要時、電話で連絡し相談や実際に診て頂くこともできる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の地域連携センターや管理者が情報交換を行い相談に努めている。病院関係者との甘寧づくりは常時行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取り」についてはご家族、医療関係者と相談しながら状況によって行っている。ご家族にはここでできることにご理解を頂きながら進めていくように努めています。	入居時は「グループホームにおける重度化対応に関する指針」にもとづいて重度化に関する考え方や体制、看取り介護への対応を説明しています。食事が摂れなくなっても、「慣れ親しんだ場所で最期を迎えたい」という家族や本人の気持ちに寄り添う姿勢もっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接の西山病院看護師にすぐ連絡できることもあり、応急手当や初期対応についての定期的な訓練は行っていない。職員の実践力を身に付けるためにも行う必要はある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の防災訓練に参加し、避難訓練等行っている。防災担当者を決め避難や物品の把握に務めるよう職員へ伝えている。	夜間想定を含め年2回の法定訓練を実施しています。台風による停電が発生しやすいため、居室用ランタンを準備し、備蓄品は防災担当職員によって管理されています。災害発生後も継続してサービスが提供できるよう業務継続計画を策定し、研修を通して有事に備えています。	最新情報を確認しながら業務継続計画の見直しを進め、防災研修を通じて周知が図られることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「認知症の人」ではなく一人の人としての生活を大切に。支援が必要なところはさりげなく言葉かけやフォローをしている。	認知症ケアについての研修では「パーソンフッド(ひとりの人として周囲に受け容れられ、尊重されること)を高める行為」として「共感をもってわかろうとすること」「能力を発揮できるようにすること」を学び、行動は意味があるとして、無理強いせず「待つ」ことも重視しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が何をしたいのか何を言いたいのかを待っている。自己決定ができるよう職員が先走らないよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の生活の場であるということを大切にし、業務優先にならないようその人のペースに合わせた一日が過ごせるよう職員同士が声を掛け合い支援するよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切にその人らしいおしゃれが出来るよう支援している。介助が必要な方にも服を選んで頂くなどのかかわりをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の配置の関係で手作りはできなくなったが、食の楽しみとして個々に好きなお弁当を選んで召し上がっていただいたり、移動スパーを活用し新鮮なお魚の提供をしたりしている。準備や片付けは職員と行っている。	病院の厨房から栄養バランスを考慮したメニューが3食届けられ、刻みやトロミ調節など、利用者の嚥下状態に合わせた食形態で提供しています。春のお花見の甘酒や、梅ジュース作り、かき氷やメロンフロート、お汁粉といった季節の手作りおやつレクも盛んです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養課にて栄養バランスを考えたメニューとなっている利用者の状態に合わせた食事形態となっている。水分補給ではご本人の好む物を提供したりストローを使用したり工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回の歯科協力病院の歯科衛生士による口腔ケア指導あり、状態を把握している。義歯洗浄は曜日を決め行い清潔を保つようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導をさりげなく行い、失敗が少なくなるよう支援している。 夜間も自立に向けポータブルトイレを置き排泄が間に合うように配慮している。	認知症の進行により排泄支援が難しくなった利用者について、「行きなくなったらトイレに向かって歩くことはできる」「早めに誘導して座る方が良いのでは」と、職員の間でも意見の相違がありましたが、「個人の意思を大切にしよう」という結論に達し、ここにも理念が活きています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を入力し把握している。医師の指示のもとに内服薬を調節し、利用者にあった時間帯に内服。体を動かす機会を作ったり、水分補給に努めるなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間は決めてあるが、入りたい時間を聞き入浴して頂いている。その日の状態に合わせて早めの入浴や最後の入浴も行っている。温泉が好きな方には入浴剤にて気分を味わっていただいている。	出来る限り入浴日以外も入浴を楽しめるよう、介護計画にも位置づけて検討しています。温泉に入りたい気持ちを入浴剤に代え、「〇〇温泉の湯」の選択を楽しみとする他、湯上りには梅ジュースや、要望があればノンアルコールビールもあり、としています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の生活リズムや精神状態を観察し日中の活動や休息の言葉かけを行っている。必要時、主治医へ相談し内服薬にて対応する場合もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の開始、中止、内服の状態などを入力し、状態の変化の把握に努めている。内服薬は診察時に説明を受け共有。 薬情報はファイルに閉じてあり閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎週、移動スーパーを利用し楽しみの一つとなっている。洗濯物をたたむことが好きな方には洗濯物作業をお願いしたり、台所作業が好きな方には台所での仕事を行っていただくなど行って頂いている。その人のあった気分転換に配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴などできる限り行っている。ご家族の協力のもとお誕生日には外食に出かけるなど現在できる限りのことは行っている。	季節に応じた時間を確保し、できる限り散歩に出かけています。春には母体病院の中庭で催される桜祭りで利用者の作品展示もあり、お茶とおやつ持参でベンチに座ってゆっくり桜を満喫できる特等席となっています。家族の協力により、愛犬と共に散歩する機会を作る人もいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる方、お財布がないと不安な方は等はご自身で持っていてください。週1回の移動スーパーや売店での支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望に沿って手紙を出したり、電話を取り次いだりしている。携帯電話の使用ができる方は使用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階のテラスには菜園や花があり、2階には吹き抜けがあり外を眺めながら室内で日光浴ができる。周囲には木々があり鳥のさえずりが聞こえるなど自然を感じることができる。	日勤・夜勤それぞれが清掃分担を受け持ち、清々しいフロアで、七夕や花火など移り変わる季節を壁面に取り入れ、利用者と一緒に制作しています。1階テラスではキュウリ、ナス、ピーマン、ブロッコリーなど、プランターで育てられた野菜の収穫の喜びもあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いホールに観葉植物で目隠しをしてあり、また、皆さんと一緒にテレビを楽しめるソファがある。畳コーナーでは外を眺めながら利用者様同士が話ができる空間もあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の要望やご家族の意見を取り入れ過ごしやすいようにしている。使い慣れたタンスや椅子を持ち込み使用されている方もいる。	誕生日に毎年贈られるプリザーブドフラワーを並べたり、購読している新聞から感銘を受けた言葉を切り抜いて壁に貼る人など、その人らしさが伝わる居室です。起立後のふらつきが懸念される人には、置き型手すりを複数設置して転倒予防としています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすや歩行器でも通ることができる広さとなっている。必要なところには手すりをつけ、夜間、ベット足元に必要な方は足元とを使用している。トイレにはトイレの表示をしわかるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101131		
法人名	医療法人一穂会		
事業所名	グループホームハイジの家(2階)		
所在地	静岡県浜松市西区西山町520番地		
自己評価作成日	令和5年11月24日	評価結果市町村受理日	令和6年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanistrue&jirvosyoCd=2277101131-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和5年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりのかなえたい事、思いを汲み取り少しずつではあるが実行しています。ご家族との連絡はLINEを活用し利用者様のご様子や状況説明などを行っており、忙しいご家族様はとても助かるという言葉を受けています。
医療面では、隣接の西山病院の医師、看護師、理学療法士、栄養士、相談員が関わり多方面からアドバイスを頂くことができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日頃の思いを担当職員が聴き取って利用者の願いを叶える「かなえるシート」に法人全体で取り組んでいます。「家族に会いたい」「忙しくて面会に来られないがゆっくり話をしたい」など、心に秘めた思いも聴かれていて、あらためて家族との絆を確かめることにつながり、感謝の言葉が届いています。介護計画にも「家族と愛犬との散歩」や「移動スーパーで毎週買い物を楽しむ」「入浴日以外にも入浴を楽しめる機会を作る」といった「かなえるシート」を活用したサービス内容が並び、理念とする西山アイデンティティの「気持ちのわかる親切～その行動は、相手が本当に求めているものなのか」の実践を裏付けています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理事長が変わり理念を引き継ぎ行うにあたってより深く理念を知ってほしいと「西山アイデンティティ」を作りました。研修により「気持ちのわかる親切・和やかな雰囲気・清潔」の意味を職員みんなで再確認し、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	法人全体では行っているが、単独では難しいところがある。去年から地域の移動スーパーを利用しており「売店のおじさん」と呼んで楽しみにされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内の包括支援センター等により研修や講演を行っているが、事業所としては運営推進会議にて認知症についての理解を深めていただくよう話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナも5類になり会議を開催している。コロナ禍の様子や今後も感染症に気をつけながらの取り組みについて話をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連絡は運営推進会議のみにとどまっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の「身体拘束廃止委員会」に出席し研修を行っている。去年、2名のエスケープが2回あり各階の出入口の施錠を行うこととなりましたが、常時開錠できるようになるよう検討を重ねていきたいと思っております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で身体拘束廃止とともに虐待についても委員会があり研修を行い職員へ伝達研修を行い理解を深めケアに生かしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について学ぶ必要があるが、機会を作ることができていないのが現状である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は法人内の地域連携センターにて説明を行っている。必要時、施設管理者が不安な転倒の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人内にご意見箱を設けてご家族からの意見を聞くことができる。また、法人ホームページにて普段の様子を年2回発信したりご家族からの意見を頂くことができる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内の個別メールにて相談できる。年1回～2回の面談を行い個々の意見を聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者とともに法人内の介護部長等に直接疑問点を伝えることもでき、改善に向けて整備をすることができるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に教育担当ができ、研修の情報を送ってくれている。オンラインで外部研修をお行ったり、伝達講習を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は行うことはできていない。今後は、交流ができるよう検討していきたい		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のアセスメントや入居1カ月間のご様子、ご本人からの聞き取り等で思いに添えるようご家族も含め考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、ご家族の考えや要望を把握し不安のないよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、ご家族の思いとご本人の状態を把握し現在必要なサービスであるか検討をしながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできることや思いを把握し一人一人に合わせた生活ができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	LINEを活用し現状を伝え、写真を送っている。その他、利用者様からご家族へはがきを送りご家族とのやり取りを行うなどご家族との繋がりをいろいろな形で行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院へ行っていただいたり、ご家族以外の交流のあった方などが気軽に来ることができるよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性を尊重しまた関係性を考えた対応をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了においても、ご家族からの相談がある場合は必要に応じて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の誕生日にかなえたいことを実地している。娘さんとゆっくり食事をしたいとの思いの方には誕生日と一緒に食事をしていただき。自宅の犬と散歩がしたい方にはご家族と犬と施設周囲を散歩をし喜ばれた。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談記録やアセスメント、日ごろの気づき等を職員間で共有するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日によって状態は違うことを理解し、その人に合った一日であるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の見直しについては見直しが必要な利用者の計画書に職員個々に必要なことを記入しモニタリングを行っている。カンファレンスで上がった意見も反映している。ケア担当社会議では多職種からの意見を聞いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録で、身体的な問題はケア記録にて職員全員が把握出来るようにしている。必要時、カンファレンスにて話し合い介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態やご家族の状況を考え現在で切るより良いサービスの検討を法人の協力を得ながら行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在の状況では地域との結びつきが難しい地域資源について考える機会を作りたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居時、ご家族の同意のもと西山病院医師となっている。約月2回の往診と必要時の診察を受けることができる。そのほか、協力歯科医院もあり訪問歯科を受けることができる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回特定看護師の巡回があり、相談ができる。また、必要時、電話で連絡し相談や実際に診て頂くこともできる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の地域連携センターや管理者が情報交換を行い相談に努めている。病院関係者との甘寧づくりは常時行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取り」についてはご家族、医療関係者と相談しながら状況によって行っている。ご家族にはここでできることにご理解を頂きながら進めていくように努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接の西山病院看護師にすぐ連絡できることもあり、応急手当や初期対応についての定期的な訓練は行っていない。職員の実践力を身に付けるためにも行う必要はある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の防災訓練に参加し、避難訓練等行っている。防災担当者を決め避難や物品の把握に務めるよう職員へ伝えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「認知症の人」ではなく一人の人としての生活を大切に。支援が必要なところはさりげなく言葉かけやフォローをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が何をしたいのか何を言いたいのかを待っている。自己決定ができるよう職員が先走らないよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の生活の場であるということを大切にし、業務優先にならないようその人のペースに合わせた一日が過ごせるよう職員同士が声を掛け合い支援するよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切にその人らしいおしゃれが出来るよう支援している。介助が必要な方にも服を選んで頂くなどのかかわりをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の配置の関係で手作りはできなくなったが、食の楽しみとして個々に好きなお弁当を選んで召し上がっていただいたり、移動スーパーを活用し新鮮なお魚の提供をしたりしている。準備や片付けは職員と行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養課にて栄養バランスを考えたメニューとなっている利用者の状態に合わせた食事形態となっている。水分補給ではご本人の好む物を提供したりストローを使用したり工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回の歯科協力病院の歯科衛生士による口腔ケア指導あり、状態を把握している。義歯洗浄は曜日を決め行い清潔を保つようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導をさりげなく行い、失敗が少なくなるよう支援している。 夜間も自立に向けポータブルトイレを置き排泄が間に合うように配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を入力し把握している。医師の指示のもとに内服薬を調節し、利用者にあった時間帯に内服。体を動かす機会を作ったり、水分補給に努めるなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間は決めてあるが、入りたい時間を聞き入浴して頂いている。その日の状態に合わせて早めの入浴や最後の入浴も行っている。温泉が好きな方には入浴剤にて気分を味わっていただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の生活リズムや精神状態を観察し日中の活動や休息の言葉かけを行っている。必要時、主治医へ相談し内服薬にて対応する場合もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の開始、中止、内服の状態などを入力し、状態の変化の把握に努めている。内服薬は診察時に説明を受け共有。 薬情報はファイルに閉じてあり閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎週、移動スーパーを利用し楽しみの一つとなっている。洗濯物をたたむことが好きな方には洗濯物作業をお願いしたり、台所作業が好きな方には台所での仕事を行っていただくなど行って頂いている。その人のあった気分転換に配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴などできる限り行っている。ご家族の協力のもとお誕生日には外食に出かけるなど現在できる限りのことは行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる方、お財布がないと不安な方は等にご自身で持っていていただく。週1回の移動スーパーや売店での支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望に沿って手紙を出したり、電話を取り次いだりしている。携帯電話の使用ができる方は使用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階のテラスには菜園や花があり、2階には吹き抜けがあり外を眺めながら室内で日光浴ができる。周囲には木々があり鳥のさえずりが聞こえるなど自然を感じることができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いホールに観葉植物で目隠しをしてあり、また、皆さんと一緒にテレビを楽しむソファがある。畳コーナーでは外を眺めながら利用者様同士が話ができる空間もあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の要望やご家族の意見を取り入れ過ごしやすいようにしている。使い慣れたタンスや椅子を持ち込み使用されている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすや歩行器でも通ることができる広さとなっている。必要なところには手すりをつけ、夜間、ベット足元に必要な方は足元とを使用している。トイレにはトイレの表示をしわかるようにしている。		